



私にとっての日本分類学会——ひとつの道程——

真鍋 一史

著者と日本分類学会と出逢いは、林知己夫先生の、知る人ぞ知る、あの単刀直入の「お誘い」から始まった。林先生の「お誘い」は神戸（1996年）、そしてベルギー・ナミュール（2000年）での「国際分類学会連合大会」であった。こうして筆者は、「国際分類学会連合」をとおして、「日本分類学会」に加えていただくことになったのである。

では、筆者にとって、林知己夫先生との出逢いは、どのようにしてもたらされたのかというと、じつははっきりした記憶がない。しかし、さかのぼれば、それが筆者とルイ・ガットマン先生との出逢いの延長線上にあったことだけは間違いない。

筆者は、1976年、はじめての在外研究機関としてイスラエル応用社会調査研究所を選んだ。そこで、ガットマン先生に出逢うことで、それまで全く予想もしなかった未知の世界——Facet Theory——に入っていくことになった。大学院在籍中に統計数理研究所のいくつかの講座に出席していたものの、「数理科学」「データ・サイエンス」「社会統計学」の専門知識の準備の全くない筆者が週に数回、朝から正午近くまで、ガットマン先生の文字どおり、手をとっての指導を受けることになったのである。それは1年にもおよび、さらに2年後には、夏休みの期間を利用して再度イスラエル応用社会研究所に滞在した。こうして、ゲーテの『イタリア紀行』の「とうとう私は生まれた」という表現を借用するというならば、「とうとう私は社会『科学』をすることになった」という実感をもつに到ったのである。

筆者はその後、Facet Theoryの研究をとりまとめ、ドイツ・ボン大学の研究叢書の一冊として、Facet Theory and Studies of Japanese Society (Bier'sche Verlangsamstalt, Bonn, Germany, 2001)を出版することができたが、林先生はその拙著に懇切な序文（英文）を寄せてくださった。そのなかで、林先生はガットマンの方法について、かなりの行数を割いて述べられた。少し長くなるが、その部分を以下に引用する。

<目次>

・巻頭言「私にとっての日本分類学会——ひとつの道程——」	
真鍋一史	1
・ダグ キャロルとフィップス アラビを偲んで 岡太彬訓	2
・日本分類学会第31回大会開催のお知らせ 酒折文武	3
・第4回日独分類シンポジウム開催報告 馬場康維	3
・第4回日独分類シンポジウムに参加して 寺田吉彦	5
・総会記録	6
・運営委員会記録	12
・幹事会記録	17
・研究報告会記録 宿久洋	19
・IFCS（国際分類学会連合）関連 岡太彬訓・山口和範	20
・学会開催情報	20
・関連学会活動	21
・事務局から	25

「ルイ・ガットマンは、私が若いころから尊敬してきた社会現象解明法の開拓者である。いわゆるガットマン・スケールはその成果の1つであり、私が社会現象の解明を志して研究を始めたころに、感銘をうけた最初のものであった。ガットマン・スケールは、方法論的に、リッカート・スケールの迷妄を一挙に打ち砕いた偉大なブレイクスルーともいえるべき考え方であった。私は1956年2月にイスラエル応用社会調査研究所にガットマンを訪ねたが、あいにく不在で、その後、同年4月米国スタンフォード大学のAdvanced Study of Behavioral Sciencesという研究所にまで足をのばして、はじめてそこに滞在していた彼に会うことができた。いろいろ話したなかで、今でも記憶に残っている1つがSmallest Space Analysisに関するものであった。それはまだ萌芽の状態のものであったと思う。私はそれが「数量化IV類」と似ていると話し、後日、私の論文を日本から送ったことを覚えている。またFacet Theoryについては、その時はまだFacetという言葉はなく、そのようなアイディアのみを聞いたように思う。それは、実験計画法というグレコ・ラテン方格配置の考え方にもとづくものであった。私どもも、かつて、

「放送を理解しやすくする方法・新聞を読みやすくする研究」でこの考え方を生きたことがあり、その本質はすぐに理解できた。しかし、従来から、私も、「日本人の国民性」というテーマに取り組んできており、このように多くの「次元」や「要素」を扱わざるを得ない調査研究——つまり、仮説検証型ではなく、探索的立場に立つ必要のある調査研究 (not theory-driven but data-driven research) ——にとっては、ガットマンの方法は、窮屈すぎて、無理があり、この考え方を社会調査のなかで発展させることはできなかった。後年、計画的に質問紙を構成する方法として Cultural Link Analysis と名づけた方法を確立することになるが、その淵源は、今ふり返ってみると、じつはこのあたりにあったように思う。しかし、ガットマンが、それを独自に Facet Theory として、社会現象の解明のための体系的な調査理論にまで発展させたことには称賛を禁じえない。素晴らしいことだと思っている。」

この林先生の真摯な叙述には、日本分類学会の研究領域に対する多くの示唆が含まれている。ここでは、それらを、以下の3点にまとめておきたい。

(1) 日本分類学会は、自然科学、社会科学、人文科学のさまざまな「個別科学 (discipline)」の「学際的な知的交流の場」として捉えられてきた。筆者の領域は「社会学」であり、その場合、「分類」という考え方の出発点は、どこまでも「社会学的イメージネーション」にある。そして、そのいわば「主観の客観化」が「数理科学」「データ・サイエンス」「社会統計学」によってもたらされるというのが筆者の方法論的立場である。ところが、この林先生の叙述を見るかぎり、先生の出発点は、「統計理論の構築」でも「解析方法の開発」でもなく、「社会現象の解明」であったと書かれている。ガットマン先生についても「社会現象解明法の開拓者」と表現されている。これは、筆者にとっては、大きな「驚き」であり、同時に「励まし」である。確かに、ガットマン先生も林先生も、その生涯をかけて、社会現象のあり方に即してデータ分析の方法を創造してこられた。私たちの行くべき道は示されている。その道をどう拓いていくかが私たちの課題であるといわなければならない。

(2) 林先生は、すでに1956年にガットマンを訪ねている。筆者がガットマン先生と出逢う、ちょうど20年前のことである。ここで示唆されるのは、科学とよばれる人間の知的営為の「国際性」ということである。林先生は、しばしば学問の国際性はいわゆる言語能力だけで決まるものではないと主張さ

れた。流暢な外国語が、ときとして深い異文化理解を阻害するとさえいわれた。グローバリゼーションの時代のなかにあつて、私たちは、いまあらためて国の枠を超える「知」のあり方の模索を始めなければならない。

(3) この叙述では、ガットマン先生と林先生との方法論的立場の違いが浮き彫りにされている。一方の Facet Theory と、他方の Cultural Link Analysis というのがそれである。ここでは、人間の知的営為における「創造性」ということが示唆されている。それは、「模倣」から「創造」への転換として捉えることもできる。日本の近代化のなかで、日本の社会学は、欧米の社会学から多くを学び、それらの膨大な成果を取り入れることで発展してきた。しかし、グローバリゼーションの時代にあつて、日本独自の創造性が求められることになってきた。これは、私たちにとっての今後の大きな課題といわなければならない。

(青山学院大学)

ダグ キャロルとフィップス アラビを偲んで

日本分類学会前会長、IFCS 理事 岡太 彬訓

Doug Carroll (ダグ キャロル) と Phipps Arabie (フィップス アラビ) が昨年6月相次いで亡くなりました。一昨年には Joe Kruskal が他界し、多次元尺度構成法に大きく貢献した研究者が相次いで鬼籍に入り、この分野に大きな損失となりました。

Doug Carroll は個人差多次元尺度構成法

(INDSCAL) の開発者としてよく知られ、Phipps Arabie は重複クラスター分析法 (ADCLUS, MAPCLUS, INDCLUS) の開発者として、また、Journal of Classification の founding editor としてよく知られています。

2人の歿後数ヶ月にわたって、各国の研究者が、自分が研究者としてのキャリアが確立できたのは、Doug のお蔭だった、あるいは、Phipps のお蔭だったという e-mail がしばしば故人の友人の間で交されていました。私も、Doug Carroll と Phipps Arabie、特に Phipps Arabie には、海外の研究者との交流関係の基礎を作って貰ったと大変感謝しています。

Joe Kruskal も含め、3人には1975年に San Diego の La Jolla (ラホヤ)にある University of California, San Diego で開催された多次元尺度構成法についての日米セミナー (印東太郎 [故人、慶應義塾大学および University California, Irvine 名誉教授] ならびに Doug Carroll が日米それぞれの代表者) で会った

のが最初でした。1990-1991年に研究休暇で1年間 Rutgers 大学の Graduate School of Management へ滞在した際には2人にひとかたならず世話になりました。Phipps Arabie には、1982-1983年に研究休暇でイリノイ大学の Department of Psychology に滞在した際にも公私共に親切にして貰いました。昨年香港で開催された IMPS-Psychometric Society の大会で、Willem Heiser は、私達が知り合うきっかけを Phipps がつくってくれたこと、また、私の話を聴いていて、私の研究者としてのキャリアの形成を Phipps が助けたのだと話していました。

最初に会った1975年には、Doug Carroll は堂々たる偉丈夫の親分肌という感じでした。確か1977年だったと思いますが、カナダでのスキーの怪我が原因で車椅子での生活となり、その中で顕著な研究業績を挙げたことには誠に敬意を払います。1975年には、Phipps Arabie は学位取得直後で、その後 University of Minnesota, University of Illinois を経て、希望だった東海岸である Rutgers University へ移りました。はにかみ屋で愛すべき不器用な人柄は生涯変わりませんでした。言葉の使い方に一家言あり、Wordsmith という言葉の語源、意味、使い方などを解説するメールマガジンを見ていて、教えて貰った私はこれを今も見ています。1996年に神戸で行われた第8回 IFCS 大会に2人が出席し、その際来日した他の研究者数人と一緒に拙宅での夕食に招きました。家にあったリキュールなどアルコール類の在庫が一掃され、びっくりしましたが楽しい思い出です。

2人と Wayne DeSarbo が執筆した3元データの多次元尺度構成法とクラスター分析法の著書¹⁾を、翻訳した際、パソコン用のプログラムを提供することになり、多くの様々なプログラム上のノウハウを Phipps Arabie から教えて貰いました。

研究者として多大な貢献を果たした Doug Carroll と Phipps Arabie の冥福を心から祈ります。アメリカに行っても、もう2人と会えないと思うととても寂しい気持ちです。今まで本当にありがとう。

- 1) Arabie, P., Carroll, J. D., & DeSarbo, W. S. (1987). *Three-way scaling and clustering*. Newbury Park, CA: Sage Publications. 岡太彬訓・今泉忠 (共訳) (1990). 3元データの分析- 多次元尺度構成法とクラスター分析法-. 共立出版.

(多摩大学経営情報学部)

日本分類学会第31回大会開催について

実行委員長 酒折 文武

日本分類学会ではこれまで30回の研究報告会が開催されて参りましたが、第31回より名称が「大会」と変更されます。その第31回大会は、2013年3月に中央大学後楽園キャンパスにて開催させていただくことになりました。大会の詳しい日時や会場、講演申込の期日などにつきましては現在調整中です。確定次第日本分類学会のウェブサイト <http://www.bunrui.jp/> にてお知らせします。多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております。

(中央大学理工学部)

第4回日独分類シンポジウム開催報告

馬場 康維

第4回日独分類シンポジウム (4th Japanese-German Symposium on Classification) が2012年3月9日 (金)・10日 (土)、同志社大学室町キャンパス寒梅館で開催された。

日独分類シンポジウムは2005年9月東京 (多摩大学品川サテライト) で第1回が開催され、その後、2006年3月ベルリン (ベルリン日独センター)、2010年7月カールスルーエ (Karlsruhe Institute of Technology) と続き今回が第4回になる。これまでの3回にわたるシンポジウムは、学会が直接運営したものではなく、データ分析や分類学に関係した日独の研究者により運営されたセミクローズドのものであったが、今回からは日本分類学会の事業の一つとして開催することとなった。この意味で日本分類学会として開催した初めての日独シンポジウムである (実行委員長宿久洋 (同志社大学)、日本側組織委員、馬場康維 (統計数理研究所)、岡太彬訓 (多摩大学)、今泉忠 (多摩大学)、宿久洋 (同志社大学)、ドイツ側組織委員、Prof. Dr. Daniel Baier (Brandenburgische Technische Universität), Prof. Dr. Wolfgang Gaul (Karlsruhe Institut für Technologie), Prof. Dr. Andreas Geyer-Schulz (Karlsruher Institut für Technologie), Prof. Dr. Claus Weihs (Universität Dortmund))。

シンポジウム前日の3月8日 (金) には同所で日本分類学会第30回研究報告会があり連続する形での開催であった。3月8日の夜は寒梅館で日本分類学会の懇親会と、日独分類シンポジウムの Get Together を兼ねて立食パーティーが開かれ日独の研究者が懇親を深めた。

3月9日の開会式では主催校を代表して同志社大学国際センター所長の山内信幸教授から歓迎の言葉があり、ドイツと日本それぞれの組織委員を代表してドイツ分類学会前会長の Prof. Dr. Wolfgang Gaul (Karlsruhe Institute of Technology), 日本分類学会の前会長岡太彬訓教授 (多摩大学) が開会の辞を述べた。

3月9日・10日のシンポジウムでは日本側の発表が23件、ドイツ側の発表が10件の計33件の研究報告があり、日本とドイツを合わせて50名の参加者があり、大変熱のこもった討論が行われた。IFCSの初代会長の Prof. Dr. Hans-Hermann Bock (Aachen University 名誉教授), ドイツ分類学会前会長である Prof. Dr. Wolfgang Gaul, ドイツ分類学会会長の Prof. Dr. Claus Weihs (University of Dortmund), などドイツ分類学会の主だったメンバーや、カナダから西里静彦トロント大学名誉教授など IFCS でおなじみのメンバーが参加し、親しみを込めた真剣な討論を行なった。3月9日の夜にはがんこ高瀬川二条苑で Conference Dinner が催され、

Prof. Dr. Claus Weihs と、元日本分類学会会長の矢島敬二氏のあたたかくユーモアにあふれたスピーチがあった。会場のがんこ高瀬川二条苑では舞妓による日本らしいセレモニーが催され、和やかで気品ある雰囲気の中で日独の参加者が懇親を一層深める機会となった。

最終日の3月10日にも、前日同様熱のこもった討論が続き、閉会式では、日本分類学会会長の馬場康維統計数理研究所名誉教授と Prof. Dr. Wolfgang Gaul が閉会の辞を述べ、2日間のシンポジウムの幕を閉じた。

プログラム、アブストラクト等は第4回日独分類シンポジウムのホームページ (http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/jgsc2011/j_index.htm) を参照されたい。なお、第1回と第2回の成果は Springer 社より、Cooperation in classification and data analysis として2009年に刊行された。第3回と第4回の成果も同じく Springer 社から刊行される予定になっている。

(統計数理研究所)



第4回日独分類シンポジウム会場



西里静彦トロント大学名誉教授の講演



Conference Dinner での矢島敬二氏によるスピーチ



Conference Dinner での Prof. Dr. Claus Weihs によるスピーチ



閉会式での Prof. Dr. Wolfgang Gaul による挨拶



閉会式での馬場康維日本分類学会会長による挨拶

シンポジウム初日は、分類シンポジウムという名前の通り、クラスタリング法を中心として分類に関する最新の研究発表が多く行われていました。この日に行われた Conference Dinner では、統計数理研究所の馬場康維先生、清水信夫先生、岡山大学の林邦好先生と同席させていただきました。食事中には馬場先生が若い頃のお話しや先生の統計学に対する考え方など非常に貴重なお話を聞くことができました。

最終日には、非対称 MDS の理論や実データ解析をはじめとし、様々な内容の発表が行われ、私は、この日の午前に行われた非対称 MDS のセッションにおいて発表を行いました。このセッションでは、方向統計学やベイズ統計学を取り入れた非対称 MDS など最新の研究発表を聞くことができ、非常に刺激的でした。また、私は、非対称 MDS の先駆者である多摩大学の岡太彬訓先生と今泉忠先生によって提案されたモデルの拡張について発表を行い、発表後に岡太先生と今泉先生から非常に有益なコメントをいただくことができました。

今回、日独シンポジウムに参加させていただき、著名な先生方の発表が聞けたというだけでなく、先生方のご意見やお話しを身近に聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。このように、著名な先生方との距離感が近いことは、日本分類学会や日独分類シンポジウムの非常に素晴らしい特徴であり、私のような学生や若手研究者にとって非常に大きなメリットであると改めて感じました。是非次回の日独シンポジウムにも参加させていただきたいと思います。

(大阪大学大学院)

第 4 回日独分類シンポジウムに参加して

寺田 吉彦

第 4 回日独分類シンポジウムが、2012 年 3 月 9 日～10 日の 2 日間にわたって同志社大学室町キャンパス寒梅館において開催されました。私は前日の 3 月 8 日に同所で開催された第 30 回日本分類学会研究集会に参加しており、シンポジウム前日の Get Together に参加することができました。Get Together では、シンボリックデータ解析の研究をされていたアーヘン工科大学の Prof. Dr. Hans-Hermann Bock とお話しする機会があり、シンボリックデータ解析の名称として相応しいのは "Analysis of Symbolic Data" か "Symbolic Data Analysis" のどちらかという議論について Bock 先生の "Analysis of Symbolic Data" という立場についてのご意見や最近 Bock 先生の研究されている時系列データのクラスタリングに関するお話しなど大変興味深いお話を聞くことができました。



Conference Dinner にて

総会記録

●平成 23 年度総会議事録

日時：平成 23 年 8 月 10 日（水）、17:00～18:00

場所：同志社大学室町キャンパス寒梅館会議室地 A

出席者：15 名

■議長の選出

議長として辻光宏氏(関西大学)が推薦され、承認された。以下、配布資料に従い、辻光宏議長の司会で議事が進められた。

■議題

1. 平成 23-24 年度幹事会人事について

馬場康維会長より、運営委員会で林篤裕運営委員会委員が幹事長として承認されたことが報告された。また、幹事についても以下のメンバーが承認されたことが報告された。

幹事（継続）：今泉忠（多摩大学）、竹内光悦（実践女子大学）、中山厚穂（首都大学東京）

幹事（新規）：酒折文武（中央大学）、佐藤美佳（筑波大学）、宿久洋（同志社大学）

2. 平成 22 年度事業報告について

旧庶務担当の山本義郎氏より p. 7 の平成 22 年度事業報告書にもとづき事業報告が行われ、審議の上、承認された。

3. 平成 22 年度決算報告について

旧庶務担当の山本義郎氏より p. 8 の平成 22 年度の決算報告書にもとづき平成 22 年度会計の決算報告が行われ、審議の上、承認された。

4. 平成 22 年度監査報告について

林文会計監事により会計監査の結果について報告があった。

5. 平成 23 年度事業計画について

竹内光悦庶務会計担当幹事より、p. 9 の平成 23 年度事業計画書にもとづき事業計画が示され、審議が行われ承認された。

6. 平成 23 年度予算について

竹内光悦庶務会計担当幹事より p. 10 の平成 23 年度予算書にもとづき、平成 23 年度予算が示され、審議が行われ承認された。

7. ジャーナルの発行について

ジャーナル発行について、今泉忠幹事から 2011 年 9 月に日本分類学会誌の第 1 号が刊行される予定であることと、第 1 号は広報のため広く無料配布を行う予定であることが報告された。また、ジャーナルの発行も起動にのり正式に発行するにあたり、ジャーナル名を日本分類学会誌(仮)ではなく、ジャーナル名を以下のように変更する予定であることが報告された。

和文：データ分析の理論と応用

英文：Bulletin of data analysis

ただし、その際には類学会の特色を表す「分類」や「学会名」などをジャーナルの表紙などに明示するなど日本分類学会発行の雑誌であることが分かるように編集委員会で検討した上で変更する予定であることが報告された。また今後の予定としては予算との兼ね合いもあるが、年 2 回の発刊を目指す出す方向で幹事会では決定しているとの報告も行われた。

馬場康維会長から、日本分類学会ジャーナル検討委員会を解散し、日本分類学会編集委員会を発足することが提案され、承認された。

8. その他

平成 24 年 3 月 8 日に日本分類学会シンポジウム、9 日、10 日に日独分類シンポジウムが同志社大学で開催されることが宿久洋幹事から報告された。

●平成 23 年臨時度総会議事録

開催日時：平成 24 年 3 月 8 日(木) 16:30～17:30

場所：同志社大学室町キャンパス寒梅館会議室地 A

出席者：16 名

■議題

<報告事項>

1. 日本分類学会賞の設立について

竹内光悦庶務会計担当幹事から、その設立の主旨や現状、経緯を含め説明がされた。今後も継続して審議していくことが報告された。

2. 次回の研究報告会(第 31 回大会)の開催について

林篤裕幹事長より来年 2013 年 3 月に中央大学後楽園キャンパスで開催予定であるとの報告された。

3. IFCS2013 について

IFCS が 2013 年 7 月にオランダで IFCS が開催される予定であることが、竹内光悦庶務会計担当幹事より報告された。

平成 22 年度事業報告書

平成 23 年 8 月 10 日

- 1) 第27回通常総会の開催：平成22年 7月31日(土) 青山学院大学にて開催
- 2) 第27回研究報告会の開催：平成22年 7月31日(土) 青山学院大学にて開催
発表件数：7 件
- 3) 第28回臨時総会の開催：平成22年12月19日(日) 多摩大学にて開催
- 4) 第28回研究報告会の開催：平成22年12月19日(日) 多摩大学にて開催
発表件数：1 2 件 (うち 1 件は招待講演)
- 5) シンポジウムの開催：平成22年 7月31日(土) 青山学院大学にて開催
テーマ「データを分類したその後は?」。
 - ・クラスター分析の活用：その可能性と不全性 鈴木督久 (日経リサーチ)
 - ・制約条件のあるクラスタリングについて 鎌倉稔成 (中央大学・理工)
 - ・クラスター分析と判別分析の活用について 今泉 忠 (多摩大学経営情報学部)
- 6) 運営委員会の開催：必要に応じて電子メールによる開催も含め実施
下記事項を検討課題とした。
 - ・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
 - ・総会の議題
 - ・その他検討の必要な事項
- 7) 幹事会の開催：電子メールにより、必要に応じて連絡をとり審議した
- 8) 2010年度統計関連学会連合大会の共催
- 9) Web サーバー関係：広報担当幹事が担当して、学会活動の報告、計画を掲載
- 10) 国際分類学会(IFCS)への協力：分担金の負担
- 11) ジャーナルADACの発行
- 12) 和文ジャーナル発行に向けての準備
- 13) H23年度役員選挙の実施
- 14) 他学会との交流と協力
 - ・統計関連学会連合理事会への協力
理事会への参加
連絡委員会、大会実行委員会への参加
連合大会への協賛
 - ・ドイツ分類学会、イタリア分類学会への協力
 - ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

平成 22 年度決算報告書

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科目	細目	予算額	決算額	増減	備考
I. 収入の部					
1. 入会金		10,000	4,000		2名 × 2,000円
2. 会費収入		366,000	482,000		
	正会員	276,000	307,000		102名 × 3,000円(過払いありのため、1000円超過:返金確認中)
	賛助会員	90,000	60,000		2社 × 30,000円
	前年度以前分	0	15,000		5名 × 3,000円
	前受金	0	100,000		20名 × 5,000円
3. 雑収入		100,000	89,212		
	研究報告会・シンポジウム参加費	40,000	64,000		32名 × 2,000円 ※第27回大会分。なお、第28回大会分は開催校にて処理
	セミナー参加費	60,000	0		
	寄付・広告等	0	25,200		学会運営費として寄付
	利子収入	0	12		銀行利子
	その他	0	0		
4. 繰入金収入		0	0		
	積み立てより繰り入れ	0	0		
A 当期収入合計		476,000	575,212		
B 前期繰越金		1,029,568	1,029,568		
C 収入合計 (A+B)		1,505,568	1,604,780		
II. 支出の部					
1. 論文誌発行業務費		0	0		
2. 事業費		510,000	132,345		
	研究会・シンポジウム運営補助費	100,000	60,000		第27回大会招聘講師費ならびに第28回大会招聘講師費
	広報費	100,000	23,840		
	名簿作成	0	0		
	選挙経費	60,000	13,140		
	その他	250,000	35,365		予稿集印刷代
3. 学会運営会合費		1,000	18,000		
	幹事会・運営委員会費・総会等運営費	1,000	18,000		総会の委任状(往復はがきなど)
	その他	0	0		
4. 事務費		85,000	7,230		
	人件費(交通費含む)	0	0		
	事務用品・消耗品費	1,000	0		
	ADAC事務連絡費	30,000	0		
	ウェブ運営管理費	20,000	0		
	会報印刷費	4,000	0		
	印刷費	30,000	600		ゆうちょ振込書印字
	その他	0	6,630		二重振込返金処理
5. 通信郵送費		45,000	22,830		
	会報送料等	20,000	0		会報未発行のため
	会費請求等連絡通信費	20,000	11,280		
	その他	5,000	11,550		
6. 負担金		85,000	0		
	IFCS	25,000	0		
	統計関連学会連合	40,000	0		H23年度にて処理(済み)
7. 積立		80,000	60,000		
	特別事業のための積立	20,000	20,000		※積み立て分は、ゆうちょ口座残高に含む
	名簿作成のための積み立て	10,000	10,000		※積み立て分は、ゆうちょ口座残高に含む
	選挙経費のための積み立て	30,000	30,000		※積み立て分は、ゆうちょ口座残高に含む
8. 予備費		1,000	0		
D 当期支出合計		767,000	240,405		
E 当期収支差額 (A-D)		△ 291,000	334,807		
F 次期繰越収支差額(C-D)		738,568	1,364,375		決算での予備費
G 支出合計 (D+F)		1,505,568	1,604,780		

日本分類学会会則第10条に基づき、平成22年4月1日より平成23年3月31日までの会計経理を監査した結果、
決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成23年7月15日
日本分類学会 会計監事

林 文 ⑧

繁樹 算男 ⑧

(実際の決算書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 23 年度事業計画（案）

平成 23 年 8 月 10 日

1. 第 29 回研究報告会, シンポジウムの開催

第 29 回研究報告会を平成 23 年 8 月 10 日(水) に同志社大学室町キャンパス寒梅館(京都府京都市) で開催する. シンポジウムを平成 23 年度冬季に開催する.

2. 第 29 回通常総会の開催

第 29 回通常総会を第 29 回研究報告会開催中の平成 23 年 8 月 10 日(水) に同志社大学にて開催する.

3. 運営委員会, 幹事会の開催

- (1) 運営委員会は第 1 回を平成 23 年 8 月に京都市(第 29 回研究報告会) で, 第 2 回を冬季に開催する. 必要に応じて電子メールを用いて開催する.
- (2) 幹事会は第 1 回を平成 23 年 8 月に京都市(第 29 回研究報告会) で, 第 2 回を冬季に開催する. また必要に応じて電子メールを用いて開催する.

4. 会報, ウェブサーバおよびメールニュース(仮称) による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報(No. 30 を平成 23 年 7 月発行) およびウェブページにて発信する. また統計関連学会連合のサーバへの移動を実施する. 加えて, 速報性のある情報についてはメールニュース(仮称) による適宜会員への情報提供を行うことを踏まえ, その環境整備を行う.

5. 日本分類学会誌(仮) (和文ジャーナル) の発行, ADAC(欧文ジャーナル) の発行協力

日本分類学会ジャーナル検討委員会を中心に創刊号の発行準備および発行を行う. また ADAC への発行協力および投稿支援を行う.

6. 第 4 回日独分類シンポジウムの開催支援

第 4 回日独分類シンポジウム(平成 24 年 3 月 9 日~10 日, 同志社大学室町キャンパス寒梅館, 京都府京都市) の開催を支援する.

7. 会員名簿の作成

会員名簿を作成する.

8. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, 連絡委員会, 大会実行委員会への参加, 2011 年度統計関連学会連合大会の共催
- (2) 国際分類学会(IFCS) への協力, 分担金の負担
- (3) IFCS 傘下学会への協力への協力
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

平成 23 年度予算(案)
平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000円×5人として算出
2 会費収入	556,000	366,000	190,000	
正会員	460,000	276,000	184,000	5,000円×(152人×0.60≒92人)として算出
学生会員	6,000	-	6,000	新規. 2,000円×3人として算出
賛助会員	90,000	90,000	0	30,000円×(5口×0.60≒3口)として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	0	0	0	新規
論文集売上	0	-	0	新規. バックナンバー販売など
予稿集売上	0	-	0	新規. バックナンバー販売など
広告収入	0	-	0	新規
別刷代金	0	-	0	新規
4 雑収入	0	100,000	△ 100,000	
研究報告会・シンポジウム参加費	0	40,000	△ 40,000	独立採算
セミナー参加費	0	60,000	△ 60,000	今年度実施計画なし
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	10,000	0	10,000	
積立より繰入	10,000	0	10,000	名簿作成積立より繰入
A 当期収入合計	576,000	476,000	100,000	
B 前期繰越収支差額	1,364,375	1,029,568	334,807	
C 収 入 合 計 (A+B)	1,940,375	1,505,568	434,807	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	550,000	0	550,000	
和文誌(No.1)	300,000	-	300,000	新規
その他	250,000	-	250,000	論文誌発行初期必要経費
2 事業費	225,000	510,000	△ 285,000	
研究会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	会場費, 講師料, 資料印刷費, 学生謝金等の補助
セミナー運営補助費	0	-	0	今年度実施計画なし
広報費	100,000	100,000	0	会報印刷, 学会パンフレット作成費.
名簿作成	25,000	0	25,000	名簿作成のための通信費, 印刷費
選挙経費	0	60,000	△ 60,000	今年度実施計画なし
その他	0	250,000	△ 250,000	研究会等が独立採算化したため
3 学会運営会合費	20,000	1,000	19,000	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	20,000	1,000	19,000	
その他	0	0	0	
4 事務費	80,000	85,000	△ 5,000	
業務委託費	50,000	-	50,000	新規. シンフォニカへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	0	0	0	昨年度実績より算出
事務用品・消耗品費	1,000	1,000	0	昨年度実績より算出
ADAC 事務連絡費	10,000	30,000	△ 20,000	該当者のみ発送. 購読費は会費に上乗せ. 昨年度実績より算出
ウェブ運営管理費	5,000	20,000	△ 15,000	昨年度実績より算出
会報印刷費	4,000	4,000	0	
印刷費	10,000	30,000	△ 20,000	開催案内, プログラムなど連絡用印刷費. 昨年度実績より算出
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	45,000	45,000	0	
会報等送料	20,000	20,000	0	会報, 開催案内, プログラムの郵送
会費請求等連絡通信費	20,000	20,000	0	
その他	5,000	5,000	0	諸連絡等の送料, 切手含む.
6 負担金	65,000	65,000	0	
IFCS	25,000	25,000	0	200ドルおよび振込経費
統計関連学会連合	40,000	40,000	0	2年分. 振込手数料を含む
7 積立	60,000	60,000	0	
特別事業のための積立	20,000	20,000	0	
名簿作成のための積立	10,000	10,000	0	
選挙経費のための積立	30,000	30,000	0	
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,046,000	767,000	279,000	
E 当期収支差額 (A-D)	△ 470,000	△ 291,000	△ 179,000	
F 次期繰越収支差額 (C-D)	894,375	738,568	155,807	
G 支 出 合 計 (D+F)	1,940,375	1,505,568	434,807	

＜審議事項＞

1. 会則と細則の変更について

竹内光悦庶務会計担当幹事から以下の会則と細則の変更についての説明がされた。また、細則の変更については運営委員会において承認されていることが報告された。

(1) 研究報告会の名称変更について

「研究報告会」の名称を「大会」とすることが提案された。審議の結果、以下の会則変更が承認された。

研究報告会の名称変更（会則第 3 条第 2 項）

現行	改訂
研究報告会その他の学術的会合の開催	大会、その他の学術的会合の開催

付則

追加：改訂 平成 24 年 3 月 8 日、第 3 条第 2 項を改訂。

(2) シニア会員の設立と関連する会則・細則の変更について

会員で主として退職された方を対象に会費割引の制度、シニア会員の設立が提案された。シニア会員は会報・雑誌等の配布、選挙権など正会員と権利は変わらないこと、シニア会員の条件は、65 歳の誕生日を過ぎていること、申出により事務局で確認し、次年度からの会費が割引（5,000 円→ 3,000 円）とする旨の説明がされた。審議の結果、以下の会則および細則の変更が承認された。

シニア会員の設立（会則第 4 条）

現行	改訂
本会の会員は <u>正会員</u> 、 <u>学生会員</u> および <u>賛助会員</u> からなる。 <u>正会員</u> 、 <u>学生会員</u> は本会の趣旨に賛同して入会した個人をいい、 <u>賛助会員</u> は本会の事業を賛助する団体をいう。	本会の会員は <u>正会員</u> 、 <u>シニア会員</u> 、 <u>学生会員</u> および <u>賛助会員</u> からなる。 <u>正会員</u> 、 <u>シニア会員</u> 、 <u>学生会員</u> は本会の趣旨に賛同して入会した個人をいい、 <u>賛助会員</u> は本会の事業を賛助する団体をいう。

付則

追加：改訂 平成 24 年 3 月 8 日、第 4 条を改訂。

シニア会員の設立（細則第 2 条）

現行	改訂
会費は次の通りとする。 (1) 正会員は入会金 2,000 円、年会費 5,000 円とする。 (2) 学生会員は入会金無料、年会費 2,000 円とする。 (3) 賛助会員は入会金 2,000 円、年会費は一口につき 30,000 円とする。	会費は次の通りとする。 (1) 正会員は入会金 2,000 円、年会費 5,000 円とする。 (2) シニア会員は種別変更費無料、年会費 3,000 円とする。 (3) 学生会員は入会金無料、年会費 2,000 円とする。 (4) 賛助会員は入会金 2,000 円、年会費は一口につき 30,000 円とする。

付則

追加：改訂 平成 24 年 3 月 8 日、第 2 条を改訂。

(3) 会員種別変更に関する細則変更について

会員種別の変更について会員種別変更は学生会員から正会員へ、正会員から学生会員へ、正会員からシニア会員への種別変更が考えられることから、運営委員会で以下の細則変更が承認され、細則が変更されることが報告された。

会員の種別変更について（細則第 1 条）

現行	改訂
会員となるためには規定の入会申し込み手続きにしたがい、正会員 1 名の推薦を受け、入会金・初年度会費の納入後、幹事会の承認を受けなければならない。	会員となるためには規定の入会申し込み手続きにしたがい、正会員 1 名の推薦を受け、入会金・初年度会費の納入後、幹事会の承認を受けなければならない。 <u>ただし会員の種別変更については事務局で状況確認し、幹事会の報告事項とする。</u>

付則

追加：改訂 平成 23 年 9 月 17 日、第 1 条を改訂。

(4) 事務局移転に関する細則変更について

平成 23 年 9 月に行われた事務局移転に関して、運営委員会で以下の細則変更が承認され、細則が変更されることが報告された。

事務局の移転（細則第 12 条）

現行	改訂
事務局を <u>東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1 多摩大学内</u> におく。	事務局を <u>東京都千代田区神田神保町 3 丁目 6 番能楽書林ビル 5 F 財団法人統計情報研究開発センター内</u> におく。

付則

追加:改訂 平成 23 年 9 月 1 日, 第 12 条を改訂。

2. 平成 23 年度の事業報告, 決算報告について

竹内光悦庶務会計担当幹事から, p. 13 の平成 23 年度の事業報告書, p. 14 の平成 23 年度の決算報告書にもとづいて事業報告, 決算報告についての説明があった。また決算額については会期末になっていないため, 想定される支出を予想金額で計上しており, 最終決算では一部で変更が考えられるが, 最終確定したものについては会報などで報告する旨の説明があった。審議の結果, 承認された。

3. 平成 24 年度事業計画, 平成 24 年度予算計画について

竹内光悦庶務担当幹事から, p. 15 の平成 24 年度の事業計画書, p. 16 の平成 24 年度予算書にもとづいて, 事業計画と予算計画についての説明があった。審議の結果, 承認された。

4. その他

現時点で会員の人数について質問があり, 竹内光悦庶務会計担当幹事から 144 名の会員がいる旨の説明と 8 月以降で 17 名の新会員の入会があったことが報告された。

第 5 回日独分類シンポジウムの日本での開催について, 第 4 回日独分類シンポジウム組織委員会の岡太彬訓委員から検討依頼がされた。なお, 開催にあたってはカンファレンスボリュームを出す必要がある旨の説明もされた。また, Joint meeting of Japanese and Italian Classification Societies の運営委員会委員である岡太委員から日本での Joint meeting の開催を検討してほしいと依頼があった。どちらについても前向きに検討していくことが確認された。

運営委員会記録

●平成 23 年度第 1 回運営委員会

日時: 平成 23 年 8 月 10 日(水), 11:30~12:45

場所: 同志社大学室町キャンパス寒梅館 6F
大会議室

出席者: 馬場康維(会長), 林篤裕(幹事長), 足立浩平, 今泉忠, 岡太彬訓, 栗原考次, 清水信夫, 竹内光悦, 中山厚穂, 水田正弘, 村上隆, 宿久洋(会長・幹事長以外五十音順, 敬称略)
陪席者: 豊田裕貴(旧幹事として), 林文(会計監事として), 山本義郎(旧幹事として), (五十音順, 敬称略)

以下の報告事項があった。

1. 平成 23-24 年度幹事長の推薦と承認
2. 平成 23-24 年度幹事会の構成と役員について
3. ジャーナル発行について
4. 業務の引き継ぎについて

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

1. 総会議題の確認・了承について
 - (1)平成 22 年度事業報告について
 - (2)平成 22 年度決算報告について
 - (3)平成 22 年度監査報告について
 - (4)平成 23-24 年度幹事会人事について
 - (5)平成 23 年度事業計画
 - (6)平成 23 年度予算案
2. その他

●平成 23 年度第 2 回運営委員会

日時: 平成 24 年 3 月 8 日(木), 11:30~12:45

場所: 同志社大学室町キャンパス寒梅館 6F
大会議室

出席者: 馬場康維(会長), 林篤裕(幹事長), 今泉忠, 岡太彬訓, 清水信夫, 竹内光悦, 中山厚穂, 真鍋一史
(会長, 幹事長以外五十音順, 敬称略)

委任状: 14 名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

1. 日本分類学会 学会賞の設立について
2. 研究会の名称変更について
3. 研究会の次回開催場所について
4. 総会議題の確認
 - (1) 平成 23 年度事業報告, 平成 23 年度決算報告について

日本分類学会 平成 23 年度事業報告

平成 24 年 3 月 9 日

1. 第29回研究報告会, 第 30 回研究報告会の開催

第29回研究報告会を平成23年8月10日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で開催した(発表件数 8 件). 第30回研究報告会を平成24年3月8日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で開催した(発表件数 8 件).

2. 第29回通常総会, 第30回臨時総会の開催

第29回通常総会を第29回研究報告会開催中の平成23年8月10日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で開催した. 第30回臨時総会を第30回研究報告会開催中の平成24年3月8日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で開催した.

3. 運営委員会, 幹事会の開催

- (1) 運営委員会は第1回を平成23年8月10日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で, 第2回を平成24年3月8日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で開催した. また第1回ネット運営委員会を2011年9月8日～9月17日に, 第2回ネット運営委員会を2011年10月15日～10月24日に, それぞれ電子メールにて実施した. 主に, 会則変更, 他学会大会・シンポジウムへの協賛, 統計関連学会連合への対応, 退会審議, その他検討の必要な課題, などを検討した.
- (2) 幹事会は第1回を平成23年8月10日(水)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)で, 第2回を平成23年9月6日(火)に九州大学伊都キャンパス(福岡市西区元岡744番地)で開催した. また第1回～第7回ネット幹事会を, それぞれ電子メールにて実施した. 主に, 運営委員会議題検討, 入会審議, その他検討の必要な課題, などを検討した.

4. 会報, ウェブサーブおよびメールニュースによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報(No.30を平成23年7月発行)およびウェブページにて発信した. また学会のアドレスの変更を行った. またプライバシーポリシーも学会ウェブページにて公表した.

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC(欧文ジャーナル)の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第1巻第 1 号を発行した. またADACへの発行協力および投稿支援を行った.

6. 第 4 回日独分類シンポジウムを開催

平成24年3月9日(金)～10日(土)に同志社大学室町キャンパス(京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入)にて第 4 回日独分類シンポジウムを開催した(発表件数24件).

7. 名簿作成に代わる会員情報データの更新

名簿を作成せずに会員情報データの更新を図り, 全会員に会員情報の確認を行った.

8. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2011年度統計関連学会連合大会の共催を行った.
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担を行った.
- (3) IFCS傘下学会への協力を行った.
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った.

9. 『「日本分類学会学会誌」創刊記念・入会キャンペーン』の実施

創刊を記念し, 2011年4月から2012年4月までに本学会正会員もしくは賛助会員として入会された会員, および再入会された会員の入会金を免除するキャンペーンを実施した(該当者は17名).

10. 学会事務局の移転の対応

学会の事務局の固定化をめざし, 事務局を 9 月 1 日付で統計情報研究開発センターに移転した. また振込口座も従来のゆうちょ銀行口座を用いて他銀行からの振り込みを受け付けることとし, それらを告知した.

平成 23 年度決算
平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	決算	増 減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	10,000	30,000	20,000	
2 会費収入	556,000	549,000	△ 7,000	
正会員	460,000	414,000	△ 46,000	納入率 (70.6%, 2012 年 3 月 31 日現在)
学生会員	6,000	8,000	2,000	納入率 (100.0%, 2012 年 3 月 31 日現在)
賛助会員	90,000	0	△ 90,000	納入率 (50.0%, 2012 年 3 月 31 日現在)
前年度以前分	0	110,000	110,000	
前受金	0	17,000	17,000	
3 論文誌関係収入	0	80,000	80,000	
論文集売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	0	80,000	80,000	論文誌 Vol.1 の広告収入
別刷代金	0	0	0	
4 雑収入	0	140,568	140,568	
研究報告会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	0	0	0	今年度実施計画なし
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	8	8	銀行利子
その他	0	140,560	140,560	研究報告会補助費辞退、など
5 繰入金収入	10,000	10,000	0	
積立より繰入	10,000	10,000	0	名簿作成積立より繰入
A 当期収入合計	576,000	809,568	233,568	
B 前期繰越収支差額	1,364,375	1,364,375	0	
C 収 入 合 計 (A+B)	1,940,375	2,173,943	233,568	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	550,000	570,018	△ 20,018	
和文誌 (Vol.1)	300,000	495,568	△ 195,568	送料を含む
その他	250,000	74,450	175,550	クラスファイル作成料、サンプル雑誌送料含む
2 事業費	225,000	136,735	88,265	
研究報告会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	
セミナー運営補助費	0	0	0	今年度実施計画なし
広報費	100,000	0	100,000	
名簿作成	25,000	0	25,000	会員情報更新で通信・郵送費等を含む
選挙経費	0	3,420	△ 3,420	前年度選挙の郵送費残高
その他	0	33,315	△ 33,315	会費二重払い対応 (振込手数料込)、入会キャンペーン負担金
3 学会運営会合費	20,000	40,720	△ 20,720	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	20,000	40,560	△ 20,560	運営委員会会議費
その他	0	160	△ 160	
4 事務費	80,000	90,840	△ 10,840	
業務委託費	50,000	25,210	24,790	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費、半年分
人件費 (交通費含む)	0	0	0	
事務用品・消耗品費	1,000	19,650	△ 18,650	研究会委員会角印、封筒購入
ADAC 事務連絡費	10,000	0	10,000	
ウェブ運営管理費	5,000	2,980	2,020	
会報印刷費	4,000	43,000	△ 39,000	会報 No.30
印刷費	10,000	0	10,000	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費、個別印刷のため未使用
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	45,000	58,320	△ 13,320	
会報等送料	20,000	43,190	△ 23,190	会報 No.30、学会からのお知らせ
会費請求等連絡通信費	20,000	1,070	18,930	会費請求に関する資料等の送付
その他	5,000	14,060	△ 9,060	研究会角印送付代、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	65,000	100,968	△ 35,968	
IFCS	25,000	40,128	△ 15,128	200 ドル × 2 年および振込経費
統計関連学会連合	40,000	60,840	△ 20,840	3 年分、振込手数料を含む
7 積立	60,000	60,000	0	
特別事業のための積立	20,000	20,000	0	
名簿作成のための積立	10,000	10,000	0	
選挙経費のための積立	30,000	30,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,046,000	1,057,601	△ 11,601	
E 当期収支差額 (A-D)	△ 470,000	△ 248,033	△ 221,967	
F 次期繰越収支差額 (C-E)	894,375	1,116,342	△ 221,967	
G 支 出 合 計 (D+E)	1,940,375	2,173,943	△ 233,568	

日本分類学会会則第 10 条に基づき、平成 23 年 4 月 1 日より平成 24 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、
決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成 24 年 8 月 29 日
会計監事

繁樹 算男 (印)

会計監事

林 文 (印)

(実際の決算書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 24 年度事業計画

平成 24 年 3 月 9 日

1. 第31回大会, 2012年シンポジウムの開催

第31回大会を平成25年3月に中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)で開催する. 2012年シンポジウムを平成24年9月(統計関連連合大会会期中)に開催する.

2. 第31回通常総会の開催

第31回通常総会を第31回大会開催中の平成25年3月に中央大学にて開催する.

3. 運営委員会, 幹事会の開催

(1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する

下記事項を検討課題とする.

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する.

4. 会報, ウェブサーバおよびメールニュースによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報(No.31を平成24年6月発行)およびウェブページにて発信する. 加えて, 速報性のある情報についてはメールニュース(仮称)による適宜会員への情報提供を行うことを踏まえ, その環境整備を行う.

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC(欧文ジャーナル)の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第2巻第1号の発行を行う. またADACへの発行協力および投稿支援を行う.

6. Joint meeting of Japanese and Italian Classification Societiesの開催

シンポジウム(平成24年9月3日~4日, Capri Island, Italy)を開催する.

7. 次期役員選挙の実施

次期(平成25-26年度)役員を選ぶ選挙を平成 24 年度冬季に行う.

8. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2012年度統計関連学会連合大会の共催
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担
- (3) IFCS傘下学会への協力
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

9. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて検討を行う.

10. 学会資料の電子化および保管

本学会の資料を J-Stage 等の団体での電子媒体での公開を踏まえ調整を行う. また電子化に伴い, 紙媒体の資料の整理を行い, しかるべき場所での保管を検討する.

平成 24 年度予算
平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	476,000	556,000	△ 80,000	
正会員	425,000	460,000	△ 35,000	5,000 円×(142 人×0.60≒85 人)として算出
シニア会員	15,000	0	15,000	新規 3,000 円×5 人として算出
学生会員	6,000	6,000	0	2,000 円×(4 人×0.75≒3 人)として算出
賛助会員	30,000	90,000	△ 60,000	30,000 円×1 口として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	80,000	0	80,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	80,000	0	80,000	論文誌 Vol. 2 の広告収入
別刷代金	0	0	0	
4 雑収入	0	0	0	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	0	0	0	今年度実施計画なし
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	60,000	10,000	50,000	
積立より繰入	60,000	10,000	50,000	選挙経費積立より繰入
A 当期収入合計	626,000	576,000	50,000	
B 前期繰越収支差額	1,116,342	1,364,375	△ 248,033	
C 収 入 合 計 (A+B)	1,742,342	1,940,375	△ 198,033	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	300,000	550,000	△ 250,000	
和文誌 (Vol.2)	300,000	300,000	0	送料を含む
その他	0	250,000	△ 250,000	
2 事業費	230,000	225,000	5,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	100,000	△ 50,000	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	0	0	0	今年度実施計画なし
広報費	100,000	100,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞経費	10,000	0	10,000	新規
名簿作成	0	25,000	△ 25,000	今年度実施計画なし
選挙経費	60,000	0	60,000	
その他	10,000	0	10,000	入会キャンペーン負担金
3 学会運営会合費	40,000	20,000	20,000	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	40,000	20,000	20,000	昨年度実績より算出
その他	0	0	0	
4 事務費	135,000	80,000	55,000	
業務委託費	50,000	50,000	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	0	0	0	
事務用品・消耗品費	25,000	1,000	24,000	学会角印、封筒購入、昨年度実績より算出
ADAC 事務連絡費	5,000	10,000	△ 5,000	該当者のみ発送、購読費は会費に上乗せ、昨年度実績より算出
ウェブ運営管理費	5,000	5,000	0	
会報印刷費	45,000	4,000	41,000	会報 No.31、昨年度実績より算出
印刷費	5,000	10,000	△ 5,000	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費、昨年度実績より算出
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	76,000	45,000	31,000	
会報等送料	56,000	20,000	36,000	会報 No.31、学会からのお知らせ、昨年度実績より算出
会費請求等連絡通信費	10,000	20,000	△ 10,000	会費請求に関する資料等の送付、昨年度実績より算出
その他	10,000	5,000	5,000	他学会へのメール便、学会での送付物、昨年度実績より算出
6 負担金	45,000	65,000	△ 20,000	
IFCS	25,000	25,000	0	200 ドル×1 年分および振込経費
統計関連学会連合	20,000	40,000	△ 20,000	1 年分、振込手数料を含む
7 積立	60,000	60,000	0	
特別事業のための積立	20,000	20,000	0	
名簿作成のための積立	10,000	10,000	0	
選挙経費のための積立	30,000	30,000	0	
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	887,000	1,046,000	△ 159,000	
E 当期収支差額 (A-D)	△ 261,000	△ 470,000	209,000	
F 次期繰越収支差額 (C-D)	855,342	894,375	△ 39,033	
G 支 出 合 計 (D+F)	1,742,342	1,940,375	△ 198,033	

(2) 平成 24 年度事業計画, 平成 24 年度予算計画について

5. 入退会について

6. その他

●平成 23 年度第 1 回ネット運営委員会

日時：平成 23 年 9 月 8 日～9 月 17 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。
議題

1. 入会キャンペーンの実施と再入会の入会金免除について.
2. 学会のプライバシーポリシーの設定について
3. 事務局移転について
4. シニア会員の設立について
5. 会員の種別変更について
6. 議事録の訂正について
7. 退会承認について

●平成 23 年度第 2 回ネット運営委員会

日時：平成 23 年 10 月 15 日～10 月 24 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

1. Italian Japanese meeting について

幹事会記録

●平成 23 年度第 1 回幹事会

日時：平成 23 年 8 月 10 日 (水), 10:00～11:15

場所：同志社大学室町キャンパス寒梅館 6F 会議室

出席者：馬場康維(会長), 林篤裕(幹事長), 今泉忠,
竹内光悦, 豊田裕貴, 中山厚穂, 宿久洋,
山本義郎 (会長・幹事長以外五十音順,
敬称略)

以下の報告事項があった。

1. 平成 23-24 年度幹事会メンバーについて,

下記の議題について審議を行った。

1. 総会議題の確認・了承について

(1) 平成 22 年度事業報告について

(2) 平成 22 年度決算報告について

(3) 平成 22 年度監査報告について

(4) 平成 23-24 年度幹事会人事について

(5) 平成 23 年度事業計画について

(6) 平成 23 年度予算について

2. 業務の引き継ぎと書類の整理について

3. ジャーナル発行について

4. 今後の学会の運営方針について

5. 来年度の研究報告会, シンポジウムについて

●平成 23 年度第 2 回幹事会

日 時 平成 23 年 9 月 6 日 (火), 15:10～17:30

場 所 九州大学伊都キャンパス

出席者 馬場康維(会長), 林篤裕(幹事長), 酒折文武,
佐藤美佳, 竹内光悦, 中山厚穂,
宿久洋 (会長・幹事長以外五十音順, 敬称略)

下記の議題について審議を行った。

1. 学術会議への登録について
2. 学会賞の設立について
3. 幹事メンバーの担当について
4. 研究報告会・シンポジウム・セミナーについて
5. 学会ウェブ・会員向けメーリングリストについて
6. 会員名簿の作成について
7. 会費の請求について
8. 学会資料の電子化について
9. 議事録の訂正について
10. その他

(1) 正会員から学生会員への種別変更 (または, その逆の変更) について

(2) 会員で主として退職された方を対象に会費割引の制度, シニア会員の設立について

(3) 第 4 回日独分類シンポジウムでの成果物の発行について

(4) 会報の発行・送付などについて

(5) 連合大会の各委員会への分類学会からの選出の委員については

●平成 23—24 年度第 1 回ネット幹事会

日時：平成 23 年 8 月 11 日～8 月 19 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し, 承認された。

1. 入会承認について。

●平成 23—24 年度第 2 回ネット幹事会

日時：平成 23 年 8 月 30 日～9 月 5 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会キャンペーンの実施と再入会の入会金免除について
2. 学会のプライバシーポリシーの設定について
3. 事務局移転について
4. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 3 回ネット幹事会

日時：平成 23 年 9 月 20 日～10 月 1 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 4 回ネット幹事会

平成 23 年 11 月 2 日～11 月 11 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 5 回ネット幹事会

日時：平成 23 年 12 月 2 日～12 月 9 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 6 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 1 月 2 日～1 月 5 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 7 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 2 月 20 日～2 月 29 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 8 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 4 月 5 日～4 月 20 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 9 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 5 月 27 日～5 月 29 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 大学における統計教育に関する提言について

●平成 23—24 年度第 10 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 7 月 2 日～7 月 10 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

●平成 23—24 年度第 11 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 8 月 3 日～8 月 17 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

お詫び

前号会報 30 号の平成 20-21 年度第 2 回運営委員会(メールにより実施)の議事録の中の議題(学会誌検討委員会のメンバー)について訂正があります。議事録の訂正につきましては幹事会、運営委員会で訂正依頼を行い、審議の結果が承認されています。

<訂正前>

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題：学会誌の発刊について

学会誌の編集方針や経済基盤等様々な観点からの検討を行ってもらう学会誌検討委員会を発足させる。委員会構成は下記の通り。

委員長 岡太彬訓(多摩大学)

委員 今泉忠(多摩大学)、豊田裕貴(多摩大学)、
宿久洋(同志社大学) 山本義郎(東海大学)

<訂正後>

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題：学会誌の発刊について

学会誌の編集方針や経済基盤等様々な観点からの検討を行ってもらう学会誌検討委員会を発足させる。委員会構成は下記の通り。

委員長 岡太彬訓(多摩大学)

委員 今泉忠(多摩大学)、豊田裕貴(多摩大学)、
宿久洋(同志社大学)、山口和範(立教大学)、
山本義郎(東海大学)

研究報告会記録

日本分類学会第 29 回研究報告会開催報告

大会実行委員長 宿久 洋

日本分類学会第 29 回研究報告会は、2011 年 8 月 10 日(水)に同志社大学室町キャンパスにて開催された。本来であれば、本研究報告会は第 4 回日独分類シンポジウムに先立って同会場で開催される予定であったが、東日本大震災の関係でシンポジウムが延期となり、単独での開催となった。報告会では 8 件の研究発表が行われ、40 名を超える参加者が活発な討論を行った。各セッションの講演は以下の通りである。

セッション 1 座長 林篤裕(九州大学)

- ・製品時系列を考慮したブログ記事の分類
中山厚穂(首都大学)
増田純也(立教大学)
鶴見裕之(横浜国立大学)
- ・クラスタリングの計算の効率化と視覚的表示法について
郡川貴子(東海大学)
山本義郎(東海大学)
- ・非対称類似度データに対する外れ値を考慮した階層的クラスタリング法について
谷岡健資(同志社大学)
宿久洋(同志社大学)
- ・POS データへの外部分析の適用
横山 暁(帝京大学)・岡太彬訓(多摩大学)

セッション 2 座長 水田正弘(北海道大学)

- ・対応分析の区間値分割表への拡張
高木育史(同志社大学)
宿久洋(同志社大学)
- ・Hyperbox model multidimensional scaling for percentile dissimilarities without the concentricity constraint
寺田吉彦(大阪大学)
宿久 洋(同志社大学)
- ・3 元データ解析の 2 つの応用
辻光宏(関西大学)

- ・係り受け解析を用いた Web 上の文章を対象とした産学連携研究開発情報抽出の試み

蔵川圭(国立情報学研究所)

孫媛(国立情報学研究所)

山下長義(日本学術振興会)

馬場康維(統計数理研究所)

(同志社大学文化情報学部)

日本分類学会第 30 回研究報告会開催報告

大会実行委員長 宿久 洋

日本分類学会第30回研究報告会は、2012 年 3 月 8 日(木)に同志社大学室町キャンパスにて開催された。本研究報告会は第 4 回日独分類シンポジウムに先立って同会場で開催するというので、第 29 回研究報告会と同会場で開催された。報告会では 7 件の研究発表が行われ、50 名を超える参加者が活発な討論を行った。各セッションの講演は以下の通りである。

セッション 1 座長 岡田謙介(専修大学)

- ・クラスタリング法と多次元尺度構成法の同時分析について
寺田吉彦(大阪大学)
宿久洋(同志社大学)
- ・多層クラスター分析法の一般化
岡太彬訓(多摩大学)
横山 暁(帝京大学)
- ・符号付グラフにおける中心性と重複クラスタリングについて
北野道春(同志社大学)・
宿久洋(同志社大学)

セッション 2 座長 林篤裕(九州大学)

- ・質問紙調査のデータ解析における「森を見る」方法の利点——国際交流基金の「評価調査」の事例——
真鍋一史(青山学院大学)
- ・大学の教養教育カリキュラム構造の見える化
石塚隆男(亜細亜大学)

セッション 3 座長 中山厚穂(首都大学東京)

- ・多変量 MARS 法に基づく柔軟判別解析における副産物利用法の効果

下川敏雄(山梨大学)
元垣内広毅(グリー(株))
辻光宏(関西大学)
後藤昌司(医学統計研究会)

- ・時間打ち切りデータに対する混合分布モデル
中村永友(札幌学院大学)・
土屋高宏(城西大学)

(同志社大学文化情報学部)

IFCS (国際分類学会連合) 関連

●IFCS2011 および IFCS2013 について

IFCS (国際分類学会連合) 理事 岡太彬訓
山口和範

IFCS2011 は Symposium of the International Federation of Classification Societies として、8 月 30 日にドイツ連邦共和国フランクフルトにて開催されました。このシンポジウムは、8 月 31 日から 9 月 2 日に開催されるドイツ分類学会 (GfKI: German Classification Society) 大会およびドイツパターン認識学会 (DAGM: the German Association for Pattern Recognition) 大会併せて開催されました。日本からも多くの参加者がありました。このシンポジウムと大会の Web site の URL は以下の通りです。

<http://www.online.uni-marburg.de/gfki2011/>

この Web site の Download から、Book of Abstracts を入手することができます。

また、2013 年 7 月には、オランダのティルブルグ大学で IFCS2013 が開催される予定です。Call for Paper 等の情報は、

<http://www.tilburguniversity.edu/about-tilburg-university/schools/socialsciences/departments/methodology/icfs2013/>

から入手できます。2013 年 7 月 14 日にワークショップが開催され、IFCS のミーティングは 7 月 15 日から 17 日の予定になっています。ティルブルグはオランダ南部の都市で、アムステルダム駅やスキポール空港から列車で 2 時間弱です。皆様方のご参加をお勧めいたします。

(岡太彬訓, 多摩大学大学院 ;
山口和範, 立教大学経営学部)

学会開催情報

<国際会議・学協会大会・定例シンポジウム等>

●日本計算機統計学会第 26 回シンポジウム

日程 : 2012 年 11 月 1 日~2 日

場所 : 東京大学 山上会館

<http://jscs.jp/sympo/26/>

●日本分類学会第 31 回大会

日程 : 2013 年 3 月 (調整中)

場所 : 中央大学後楽園キャンパス

<http://www.bunrui.jp/>

●Symposium of the International Federation of Classification Societies (IFCS2011)

Date: 14-17 July 2013

Venue: Tilburg University, The Netherlands

<http://www.tilburguniversity.edu/about-tilburg-university/schools/socialsciences/departments/methodology/icfs2013/>

●Joint Conference of GfKI and SFC 2013

“European Conference on Data Analysis”

Date: 10-13 July 2013

Venue: Grand Duchy of Luxembourg,
Luxembourg

<http://gfki2013.lu/>

www.sfc2013.lu

●International Statistical Institute, 59th ISI World Statistics Congress

Date: 25-30 August 2013

Venue: Hong Kong Convention and Exhibition Centre (HKCEC), Hong Kong, China

<http://www.isi2013.hk/en/index.php>

●日本行動計量学会第 41 回大会

日程 : 2013 年 9 月 3 日~6 日

場所 : 東邦大学 習志野キャンパス

<http://www.sci.toho-u.ac.jp/accessmap/index.html>

なお、ISI の Web site に最新の国際会議情報が掲載されています。詳しくは、

<http://isi.cbs.nl/calendar.htm>

を参照ください。

関連学会活動

2012 年 9 月吉日

2012 年度統計関連学会連合大会の報告

1. 大会概要報告

運営委員会委員長 瀬尾 隆 (東京理科大学)
実行委員会委員長 水田 正弘 (北海道大学)
プログラム委員会委員長 宿久 洋 (同志社大学)

2012 年 9 月 9 日 (日) から 12 日 (水) において、2012 年度統計関連学会連合大会が開催され無事に終了することができました。

2012 年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合の 6 学会 (応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会) の共催、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の後援により行われ、9 日はチュートリアルセッションおよび市民講演会を「かでる 2・7」(札幌市中央区) で、10 日からは北海道大学高等教育推進機構 (札幌市北区) にて盛大に開催されました。

初日に大雨による交通機関の乱れがありましたが、参加者総数 824 名、発表件数 368 件を数えました。講演数の内訳は、大会特別セッション 5 件、企画セッション 84 件、一般セッション 248 件、コンペセッション 27 件、デモンストレーション 4 件でした。また、一部の企画セッションを北海道大学情報基盤センターおよび文部科学省との共催セッションとしてワークショップを開催し、23 件の講演がありました。懇親会はサッポロビール園で行われ、例年にないほど多くの申し込みがあり、満席となる 200 名の出席があり、盛会でした。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、出席者の皆様に感謝申し上げます。

本連合大会は、実行委員、プログラム委員、運営委員など無償のボランティアで運営されています。また、今年度も各委員の負担軽減のため、事務局業務の外部委託を行っております。皆様のご理解をいただければ幸いです。最後に、大会実行委員、プログラム委員および運営委員の積極的なご協力を得て、大会の円滑な運営を行うことができました。この場を借りて、各委員の皆様と北海道大学のアルバイト学生の皆様、そしてご協力いただいた多くの関係者の方々に心から御礼申し上げます。

2. 大会特別セッション報告

椿 広計 (統計数理研究所)

9 月 11 日 (火) 17 時から 19 時 15 分まで、大会特別セッション「福島第一原子力発電所事故の放射能影響に関するデータに基づく俯瞰」が開催された。ここでは、事故影響を、放射性物質の放出、大気中拡散、生活環境への沈着から移動、健康影響といった一連のプロセスとして理解するための講演が行われた。オーガナイザーより、企画の背後にある学術会議提言「東日本大震災放射能対策の新たな一歩を踏み出すために—事実の科学的探索に基づく行動を—」の概要が紹介された。北川源四郎氏 (情報・システム研究機構長) は、「福島原発事故からの放射能放出総量」の演題で、事故に関わる放射性物質放出の形態、関連するデータを明らかにし、核種ごとの半減期情報と事故直後の観測時系列データから状態空間モデリングを

行い、核種ごとの放出に迫る分析結果を示した。大原利眞氏 (刻隆環境研究所地域環境センター長) は、「福島原発事故による放射性物質の大気中の挙動」の演題で、放射性物質の大気輸送シミュレーションモデル、その予測結果と再現性、不確かさに関して俯瞰的報告を行い、ホットスポット発生を再現するとともに、国内外で行われたモデリングの特徴を整理し、文科省モニタリングデータとの照合から、放出量について東電の推定が過小、ストールの推定が過大であることを示した。恩田祐一氏 (筑波大学生命環境系教授) は、「福島原発事故起源の放射性核種の陸域環境中での移行」の演題で、沈着した放射性物質の陸域環境内での移行、濃縮について、データの定義のあり方、サンプリング・測定の方法を示した。特に、阿武隈川堆積土砂の汚染が大きな問題であることを指摘した。柴田義貞氏 (福島県立医大特命教授) は、「社会と統計学 1 ミリ 100 ミリ論争の齟齬にある統計的背景」の演題で、放射線影響評価の標準的方法を俯瞰し、今回生じた低用量放射線の健康影響に関連して、統計モデルから得られている知見の限界や、線量限度が健康影響出現下限と誤解されていることの問題を明らかにした。これらに対して、大瀧慈氏 (広島大学原爆放射線医科学研究所教授) より指定討論があり、これからの放出、拡散予測発表のタイミング、今後有効な対処方法、健康影響評価の根拠モデルへの疑問、今後の研究者育成などに関わる問題提起がなされ、講演者からの回答もなされた。この種の専門知を課題解決のために繋ぐために、統計家には期待が寄せられるかもしれない。

3. 企画セッション報告

大森 崇 (同志社大学)

企画セッションは、1 月中旬から公募を行い、最終的に 21 件が採択されました。セッション名とオーガナイザー (敬称略) は以下のとおりです。

- ・マイクロデータの二次利用 その仕組みと研究活用事例：渡辺美 智子 (慶応義塾大学)
- ・統計学初級中級講座「マルチレベル解析と繰り返し測定データの解析」：岩崎 学 (成蹊大学)
- ・医薬データの統計解析：石橋雄一 ((株) スタットラボ)、水田正弘 (北海道大学)
- ・量子統計：理論的な進展と物理実験への応用：田中 冬彦 (東京大学)
- ・日本統計学会各賞受賞者講演：岩崎 学 (成蹊大学)
- ・スポーツと統計科学の融合：酒折文武 (中央大学)、田村義保 (統計数理研究所)
- ・日本計量生物学会奨励賞受賞者講演：手良向聡 (京都大学)
- ・確率微分方程式モデルの統計解析：内田雅之 (大阪大学)
- ・クラウドコンピューティングと大規模データ処理：棟朝御青 (北海道大学)、水田正弘 (北海道大学)
- ・日本計量生物学会シンポジウム「放射線の健康影響に対する生物統計家の取り組み—これまでの成果と新たな展開—」：和泉志津恵 (大分大学)
- ・JSS-KSS-CSA International Session I : Analysis of data with

correlated errors : Jinfang Wang (千葉大学), Taesung Park (Seoul National Univ.), Ming-Yen Cheng (National Taiwan Univ.)

- ・JSS-KSS-CSA International Session II : Inference for high dimensional data : Jinfang Wang (千葉大学), Taesung Park (Seoul National Univ.), Ming-Yen Cheng (National Taiwan Univ.)
- ・JSS-KSS-CSA International Session III : Computational statistics : Jinfang Wang (千葉大学), Taesung Park (Seoul National Univ.), Ming-Yen Cheng (National Taiwan Univ.)
- ・ファイナンス統計学における漸近的方法とその実装: 吉田朋広 (東京大学)
- ・日本分類学会シンポジウム「データ分析の理論と応用」: 栗原考次 (岡山大学)
- ・高等学校の統計教育の改革と大学入試での取り組み: 深沢弘美 (東京医療保健大学)
- ・金融のリスク管理: 三浦良造 (一橋大学)
- ・応用統計学会 学会賞受賞者講演: 黒木 学 (統計数理研究所), 永田 靖 (早稲田大学)
- ・教養教育における統計教育とその評価方法: 藤井良宜 (宮崎大学)
- ・非対称分布の統計学の理論と実際: 清水邦夫 (慶應義塾大学)
- ・資金循環統計へ拡充の成果と課題: 櫻庭千尋 (日本銀行)

4. コンペセッション報告

栗木 哲 (統計数理研究所)

コンペセッションには27名の申し込みがあり、最優秀報告賞には金大柱さん、優秀報告賞には池端久貴さん、田中豊人さん、寺田吉壱さん、平野敏弘さん、吉森雅代さんが選ばれました。

セッションは、2日間にわたって5セッション設けられました。過去の反省を踏まえる形で、審査は一般の参加者が審査するのではなく、12名の覆面審査員が行いました。審査員名簿は、後日公表されることになっています。1講演について、原則5名の審査員が担当しました。採点、集計方法は、事前にウェブページで公表されていきました。その方法は、各審査委員は各講演にたいしてA(4点)~E(0点)のスコアを与え、単純平均によって順位付けを行い、最終的には最優秀賞と優秀賞の人数を、得点の分布状況によって決定するというものです。

集計の結果は、表彰式の際に宿久プログラム委員長が述べていたように、内容、プレゼンテーションともによく準備された優れた発表が多かったため、得点分布は上位が重いものになりました。結果として非常に僅差の境に線を引かざるを得ませんでした。審査員1名がスコアを1つ変えただけで結果が変わるものです。今回選にもれた方も、そのようなものと考えていただきたいと思います。

最後に、他セッションへの参加を犠牲にして審査に当たっていた審査員の先生方に、この場をお借りし厚くお礼を申し上げます。

5. チュートリアル報告

栗原 考次 (岡山大学)

テーマA: 「主成分分析の行列的基礎と非計量・三相配列・因子分析への発展」

講師: 足立浩平 (大阪大学)

チュートリアルのテーマAでは、足立浩平氏 (大阪大学) により、主成分分析(PCA)の基礎、計量値を非計量値に拡張および三相配列における制約をいれた分析法の階層関係、さらに、因子分析と主成分分析の類似、相違について丁寧に解説していただきました。当日は、札幌地方の大雨の影響で交通機関に乱れが生じ、開始時間には若干空席も目立っていましたが、基礎編が終了する1時間後には参加予定者はほぼ到着でき一安心でした。

セミナーは4部構成で、第1部では、PCAに対する特異値分解によるデータ行列の最小二乗近似としての定式化、第2部では、非計量PCAとそれを拡張した多重対応分析を取り上げ、多変量カテゴリカルデータの Kategorii を数量化によるPCAと定式化について説明していただきました。第3部では、条件×個体×反応の三相配列データPCAの個別手法として、Tucker2, Tucker3, および, Parafac手法、第4部では、データフィッティングFAおよび手法間の関係や類似・相違について解説していただきました。

講演の後、非計量値データの数量化の方法や計量データと非計量データが混在している場合の解析法などについて活発な議論がなされました。さらに、セッション終了後も講演者と参加者との有意義な意見交換が行われていました。また、配付冊子の各章末には多くの文献が掲載されており、今後この分野の研究を目指している研究者にとっては非常に有用な資料でした。

大久保 智哉 (大学入試センター)

テーマB: 「テキストマイニングの活用」

講師: 保田明夫 (富士通エフ・アイ・ピー・システムズ株式会社), 神田晴彦 (株式会社野村総合研究所), 八木征子 (株式会社数理システム)

チュートリアルBでは「テキストマイニングの活用」と題し、3名の講演者にお越しいただきチュートリアルをおこなった。

一つ目の講義は、保田明夫先生 (富士通エフ・アイ・ピー・システムズ株式会社) による「WordMinerによるテキストマイニングの実践」であった。この講義においては、WordMinerによるデータ解析を実際にソフトを用いて体験し、WordMinerの機能や操作方法、解析事例について説明がおこなわれた。また、ビッグデータ解析やデータ・フュージョンへの対応も含めて、テキストマイニングの現状と今後の方向性について解説・議論された。

二つ目の講義は、神田晴彦先生 (株式会社野村総合研究所) による「TRUE TELLER テキストマイニングによるデータ解析」であった。この講義においては、TRUE TELLERの機能や基本操作について実際にソフトを扱いながらテキストマイニングの効果的な活用方法について議論された。また、既存のアプリケーションとの有用な連動による効果的な活用方法についても示された。

三つ目の講義は、八木征子先生 (株式会社数理システム) による

「Text Mining Studio と Visual Mining Studio を用いたテキストとデータの融合分析」であった。この講義では、Text Mining Studio と Visual Mining Studio を実際に操作しながら、データ入力からパラメータ調整、分析結果の解釈までの過程を通じてテキストマイニングの有効性について議論された。また、テキストデータを用いた判別・予測モデルの構築についてもその有用性が示された。

6. 市民講演会報告

清水 邦夫（慶應義塾大学）

テーマ1：「統計検定：出題傾向と結果分析」

講師：岩崎学（成蹊大学）・吉田清隆（情報・システム研究機構）

2011年11月20日（日）に実施された第1回目の「統計検定」について、(1) 統計学を取り巻く環境、(2) 統計検定の概要、(3) 統計検定2級の結果分析の順に発表がなされ、最後には、(4) 2012年の「統計検定」受験案内と今後の展開についても述べられた。

(1)では、産業界や統計内容の履修修化による教育面からのニーズなどの統計学への期待が高まっているという状況が説明され、(2)では、そのような状況の中で日本統計学会公式認定「統計検定」が2級、3級、4級、統計調査士、専門統計調査士の5種類の試験科目で実施されたことが合格率の提示とともに紹介された。また、2012年5月に実施された英国王立統計学会との共同認定による国際資格試験について、および2級と3級対応書籍が日本統計学会編集で既に出版されていることについても説明された。(3)では、受験者数が最も多かった2級（大学基礎課程で習得すべき内容）について合格率・各問題の正答率の紹介と設問解答分析がなされた。正答率により5群に分けたところ、識別力の高い問題（群により正答率が異なる）と低い問題（正答率が全体的に高いもしくは低い）があったことが紹介された。検定試験の目的は第一義的には受験者の能力の識別ではあるが、それだけではなく正答率が高い問題には奨励の意味があり、正答率が低くても学習内容として大切というメッセージがあるという考え方が披露された。(4)では、2012年11月18日（日）に第2回目の「統計検定」が1級を加えてフルラインナップで実施されることが紹介された。

発表内容は分かり易く、講師の話し方は聴衆を飽きさせないものであった。市民講演会の話題として適当な内容であったと思われる。

手良向 聡（京都大学）

テーマ2：「新薬の開発に統計学はどのように利用されているのか」

講師：大森 崇（同志社大学）、安藤友紀（医薬品医療機器総合機構）

2012年9月9日（日）、札幌市の「かでる2・7」において、市民講演会「新薬の開発に統計学はどのように利用されているのか」が開催されました。演者は、新薬の承認審査の経験を有する2名の先生、大森崇先生（同志社大学）と安藤友紀先生（医薬品医療機器総合機構）、司会は、同総合機構・科学委員会委員でもある佐藤俊哉先生（京都大学）が務められました。100名を越える参加者の中、まず大森先生が、「クスリ」の性能を評価するために臨床試験のデータが必要であること、「効いた」というためには何かと比較しなければならないこと、比較のためにランダム化という知恵が重要なこと、

を丁寧に説明され、統計学がそれらデータに基づく評価全体を支えていることを述べられました。次に安藤先生が、新薬を承認すべきかどうかには厳密な審査が必要なこと、臨床試験の計画や評価には統計学的視点（特に、何名を対象とし、何を評価し、どのようにデータを解析するか）が重要であることを分かりやすく解説されました。全体として、医療、特に新薬の開発における統計学の役割を多くの方に知っていただく機会となり、たいへん有意義な講演会であったと思います。

7. 文部科学省 数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ報告

水田 正弘（北海道大学）

2012年度統計関連学会連合大会において、5つの企画セッションをまとめて、北海道大学情報基盤センター、文部科学省、統計関連学会連合の共催、北海道大学数学連携研究センターの後援のもと、「平成24年度 文部科学省 数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ」を開催いたしました。

統計科学は、データに基づく実証的学術の全般を支える基盤的数理科学として、130年以上にわたり独自の発展を遂げると共に、計量生物学、計量心理学、計量経済学などのさまざまな学術分野を創生してきました。本ワークショップでは、情報爆発と呼ばれる新たなデータ環境の中で、先端的な統計科学的方法論が学術創生を超えて、産業界全般にどのようなインパクトを与えているのか、あるいは与えるのかについて、従来から統計科学の産業展開が世界的にも活発な医薬品産業・ファイナンス分野、この10年間に急速に産業展開が加速しているスポーツ産業を取り上げ、わが国の取り組みのあるべき姿を産学連携で議論する場の提供を目指しました。

本ワークショップは、「医薬データの統計解析」、「スポーツと統計科学の融合」、「クラウドコンピューティングと大規模データ処理」、「ファイナンス統計学における漸近的方法とその実装」、「金融のリスク管理」で構成されました。分野の多様性は、統計科学が有する汎用性の表れです。各セッションを通じて、統計科学が実社会に有用であることが示されたと思います。セッションにおける参加者数は平均して約40名でした。特に、研究者以外に産業界関係者が多かったことが特徴だと思います。まさに、統計科学の産業界への応用という目的に合致しております。

本ワークショップでのセッションオーガナイザー・講演者・参加者、さらには申請に関してご尽力くださった統計関連学会連合理事長の椿広計先生に感謝いたします。

8. コンペセッション受賞者の言葉

金 大柱（九州大学）

この度、統計関連学会連合大会コンペティション講演におきまして、「最優秀報告賞」という大変名誉ある賞を授けいただき、驚きとともに大変嬉しく思っております。コンペティション講演を企画・運営してくださった先生方、審査に参加していただきました先生方と講演を聞いていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

日々ご指導をいただいております二宮嘉行先生に心から感謝を申

し上げます。また、共同研究者である川野秀一先生をはじめ九州大学統計グループの先生方、修士時代より指導をいただいております小西貞則先生および研究生活を支えてくださっている全ての方々に深く感謝いたします。

今回の受賞を糧として、より一層日々の研究に励み、現実社会に貢献できるような素晴らしい研究成果を創出できるよう精進して参ります。また、有能な研究者として活躍できるよう様々なことに積極的に挑戦していきたいと思ひます。この度は、誠にありがとうございました。

池端久貴（総合研究大学院大学）

このたびの優秀報告賞の受賞は大変嬉しく思っております。丁寧な指導して頂いた統計数理研究所の吉田亮先生には深く感謝しております。

今回の報告では与えられた複数の DNA 配列から 1 度のギブス・サンプリング・アルゴリズムの試行で多様な部分類似配列を得るための手法を提案致しました。今回の提案手法は DNA 配列の解析以外にも多くの目的に応用可能だと考えており、そのためには一般的な問題を扱うことができるように現在の手法の拡張する必要があります。そういう意味で研究としてはまだまだ入口にある状態だと思っております。今後、多くの課題を克服するためにも初心を忘れず、常に自己研鑽の姿勢を持ちながら研究活動を続けていきたいと思ひます。

統計学を学び始めて半年、これまで手さぐり状態で研究を行ってきましたが、このような評価を頂くことができたことは今後の大きな励みになります。ありがとうございました。

田中豊人（東京大学）

この度は、統計関連学会連合大会におけるコンペティション講演にて優秀報告賞を頂き、大変光栄に思っております。平素より大変熱心に指導していただいている駒木文保先生や、アドバイスをくださった研究室関係者の皆様に心より感謝いたします。そして、審査をはじめとして、コンペティションという貴重な経験の場を提供してくださった大会運営関係者の皆様に、厚くお礼を申し上げます。本報告では、伝統的な手法により得られるパラメータの分位数に対し、ベイズ的手法により得られた分位数が近似的に等しくなるように、事前分布を構成する手法に関する発表を致しました。その中で、サンプルサイズに依存した事前分布の導入により、より高次のオーダーで両者を等価にすることができる手法を提案しました。今回の受賞を励みに、より一層精進する所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

寺田吉壱（大阪大学）

この度は、2012 年度統計関連学会連合大会において優秀報告賞という栄誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に存じます。平素よりご指導頂いております狩野裕先生と鎌谷研吾先生、発表資料や発表

技術に関して非常に熱心に指導をして下さった廣瀬慧先生、発表練習にお付き合頂いた狩野研究室の皆様は心より感謝申し上げます。また、コンペティション講演を企画・運営して下さった先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

本報告では、次元縮約とクラスタリングを同時に行う方法である Reduced k-means (RKM) 法が強一致性をもつための十分条件を与える定理をご報告させて頂きました。RKM 法は k-means 法を特別な場合として含んでおり、本定理は k-means 法に関しても Pollard (1981) よりも弱い十分条件を与えています。

今回頂いた賞を励みに、より良い研究ができるように研究活動に邁進する所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

平野敏弘（東京大学）

この度は優秀報告賞を頂き、大変光栄に存じます。コンペティション講演を企画・運営・審査して下さった先生方、講演を聴いてくださった方々に厚く御礼申し上げます。また、平素よりお世話になっております東京大学大学院経済学研究科経済理論専攻統計コースの先生方、博士課程全般において激励して下さっている指導教員の矢島美寛教授に心より感謝申し上げます。

本報告では、ある種の非正規確率場に従うような空間データが大量に得られた場合におけるクリギング予測量(BLUP) の高速計算方法について発表させて頂きました。研究は難航しましたが、最終的に最適な非線形予測量、BLUP、高速計算可能な近似的 BLUP の 3 つが MSE の意味で漸近的に同等であることが分かりました。

まだまだ至らぬところが多々あるのですが、今後も自身の研究活動に邁進していく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

吉森雅代（大阪大学）

このたびは栄誉ある優秀報告賞を頂き、大変光栄に思ひます。日頃丁寧にご指導いただいている狩野裕先生、そして何度も議論して下さった共同研究者の Partha Lahiri 教授に心より感謝申し上げます。また、修士のころよりお世話になっている先生方、研究室のみなさま、研究室を卒業しても気にかけてくださる諸先輩方にも深く感謝申し上げます。私自身、統計を勉強し始めたのは大学院からであり、本当に様々な方々に支えられてきました。

このたびの報告では、小地域推定問題においてモデル分散パラメータが 0 と推定される問題に対する新たな解決法を提案いたしました。提案手法はこの分野のみならず、生命科学をはじめとする様々な分野へのさらなる応用にも繋がるかと確信しております。このたびの受賞を励みに、更に精進していく所存ですので、より一層のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、大会関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

事務局から

●学会誌への論文投稿について

学会研究報告会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿して下さい。お待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2011年9月に第1号を、2012年9月に第2号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: [bda-submit\(at\)bunrui.jp](mailto:bda-submit(at)bunrui.jp)

問い合わせ先 E-mail: [bda-contact\(at\)bunrui.jp](mailto:bda-contact(at)bunrui.jp)

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせ下さい。

●ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」のページにある

<http://www.bunrui.jp/application/>

入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送り下さい。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認下さい。

<http://www.bunrui.jp/application/JCS-applicationGuideline.pdf>

申し込み後、幹事会にて入会の承認をおこないます。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

●事務局移転のお知らせ

事務局の連絡先が2011年9月1日付で移動となりました。以降は新しい連絡先までご連絡下さい。

<新連絡先>

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

(公財) 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

●会費等振込先変更のお知らせ

会費等振込先が2011年9月以降以下の口座に変更となりました。以降は、新しい口座にお振り込みいただくよ

うお願いいたします。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュー) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

●事務局のメールアドレス変更について

本学会の事務局のメールアドレスが、

office@bunrui.jp

に変更になりました。今後は、こちらの新アドレス宛てにご連絡下さいますようお願い申し上げます。

●学会ホームページの引越しについて

本会のホームページが

<http://www.bunrui.jp/>

へ引越しました。これにともない、すべて新しい URL での情報提供となっております。ブックマークなどに登録しておられる場合は、早めに変更されるようお願い申し上げます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/jcs/>

の部分すべて

<http://www.bunrui.jp/>

にご変更ください。

■編集後記

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、紙面を借りて、お礼申し上げます。お忙しいところ、ありがとうございました。今後も、これまでと同様に皆様からのご意見をお伺いしながら、皆様のお役に立てるような魅力ある充実した会報となるように努めていきたいと考えております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

編集担当: 中山厚穂(首都大学東京)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

(公財) 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>